

第 1 期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

埼玉大学

平成 2 3 年 5 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（9項目）のうち、5項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、5項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「全学的な教育を一層充実させるための組織的な整備を図る」及び「すべての授業について学生による授業評価を実施し」について、「全学開放型」の教養教育プログラム等を実施し、PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルによる充実が図られたこと及び、全学教育企画室で学生による授業評価を実施・分析し、その結果を教員へ還元するとともに自己点検評価委員会による分析等を行ったことにより、高い授業満足度を得ていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「学部ごとの卒業生がその能力を発揮しうる進路に関する情報を学生に提供する」、「学生の進路体験が可能な体制を充実する」、「各研究科が、特徴に応じて設定する修了後の進路を明確にし、優秀な人材の育成に努める」及び「前期（修士）課程にあっては、各研究科とも高度専門職業人の育成に主たる目標を置いて教育・研究指導を行うとともに、専門分野の特性に応じて後期（博士）課程に進みうるに足る研

究能力の育成に努める」について、地域に根ざしたインターンシップや就職支援、教育活動の充実により、卒業生・修了生が専門性を活かした幅広い職種に就職、あるいは大学院に進学していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「各種の基本的な知識・スキルを身につけさせるための教育プログラムは、『英語教育開発センター』、『情報教育センター』、及び『基礎教育センター』において設計し、全学的に教育を行う」について、全学教育における英語スキル教育において、TOEIC スコアによる習熟度別クラス編制を行い、CALL 等の授業科目を活用していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「学内組織として『教育・研究等評価センター』を設置する」及び「学外者も登用する」について、教育・研究等評価センターに現役の高等学校長を登用するなど、学外者の意見を反映させていることは、特色ある取組であると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（14 項目）のうち、1 項目が「良好」、13 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、13 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

- 中期目標「シラバスの充実を図り、学生による授業評価を実施して、教育方法の改善に資する」について、電子化したシラバスの新規入力を原則毎年行うこと及び、学生の授業評価を参考にした対応を「教員活動報告書」に記載することを義務づけていることは、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、1 項目が「良好」、

3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「情報支援スタッフの配置を検討する」及び「教員の教育活動に関する業績、貢献を『教員活動報告書』として提出させ、教育活動の評価の基礎資料とする」について、教員の教育活動評価システムの構築や、ティーチング・アシスタント (TA) を重点的に配置して、教育の質の向上につなげていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「効果的なマルチメディア対応型の講義室をできる限り早期に整備する」、「情報ネットワーク等の利用が可能になるシステムをできる限り早期に充実させる」及び「留学生センターをさらに充実することを検討し、具体案を策定する」について、学内情報ネットワークの基盤やマルチメディア対応型講義室の整備、国際交流センターの充実等で大きな進展が見られ、教育面での質の向上につながっていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「各学部・研究科と連携して教育方法の改善、教材・学習指導法の研究開発を行う」について、英語教育開発センターにおいて、パソコンを利用した CALL 教育システムの教材開発をしていることは、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「すべての教員が、学期中、毎週 1 回のオフィスアワーを設ける」について、全教員が週 1 回のオフィスアワーを設けシラバスで周知し、また、英語教育開発セン

ターの「英語なんでも相談室」や基礎教育センターのオフィスアワーの利用学生数が着実に増加しているなど、授業時間以外での指導・支援システムが、学生のニーズに応え、十分に効果を発揮していることは、優れていると判断される。

- 中期計画「学生の生活相談、就職支援を行う」について、学生支援の総合窓口「さいだいスポット 21」の利用学生数が急増しているほか、就職相談室が各学部の進路指導委員会と連携して行う学生の就職支援により相談学生数が急増し、また、就職率も向上するなど、学生のニーズに応え、十分に効果を発揮していることは、優れていると判断される。

（Ⅱ）研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

- 中期計画「地域貢献につながる共同研究プロジェクトを推進する」について、地域の芸術文化施設等との共同研究や連携事業が実施され、その中でも、科学技術振興機構「埼玉県地域結集型共同研究プロジェクト」の継続発展事業として都市エリア産学官連携促進事業を開始し、地域貢献につながる積極的な活動が高いレベルで機能していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「研究評価を行い、その結果を公表する」について、『教員評価報告書』に基づく各教員の部局ごとの研究評価の実施、評価センターによる評価基準・評価結果の分析及び評価方法改善点の提言のほか、各部局による「研究の質向上の工夫に関するチェックシート」に基づく自己点検等の研究評価を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5 項目）のうち、2 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「若手研究者を『研究推進部門』のプロジェクトに参加させ、研究以外の業務を軽減して、自立した研究に集中できる制度を検討し」、「必要な電子ジャーナル等の整備に務める」及び「産業界との共同研究を増加させ、有用性のある研究を実施し、特許の出願を推進する」について、若手研究者に対する研究以外の業務を軽減する配慮を行うとともに、電子ジャーナルの整備や知的財産評価委員会を開催して迅速な知財化を推進したことにより特許出願件数が増加したことは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「地域共同研究センターを充実し、埼玉大学産学交流協議会の活動、サテライト教室における技術相談などを推進する」について、地域共同研究センターの埼玉大学産学交流協議会との連携による技術相談窓口の開設等の活発な取組は、特色ある取組であると判断される。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、2項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「社会人を対象とした専門職業人教育の充実に努める」、「各学部・研究科において社会人受け入れ枠の拡大について検討し、具体案を作成する」及び「サテライト教室における教育相談や技術相談を充実させるとともに、社会人再教育や資格取得支援教育等さまざまな地域貢献策について検討し、実施に移す」について、有職者等のための長期履修学生制度の導入、社会人のための土曜開講・夜間開講の実施、大学院への社会人受入れ枠の拡大等、社会人を対象とした専門職業人教育の制度を充実している。また、地域共同研究センターにおける技術相談件数が増加したほか、高学歴・高齢のホワイトカラー離職者に対する職業訓練プログラムを実施し、受講者から高い評価を得ていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「地域密着型の各種事業の充実とともに、学生の体験活動等の観点から、

更なる新規事業を積極的に試みる」及び「インターンシップ教育をその単位化を含め積極的に推進する」について、学生を地域の学校に派遣するアウトリーチ活動を単位化するプログラムを開始し、派遣学部学生・大学院生数が大幅に増加したこと、また、公的機関や産業界へのインターンシップの単位化や派遣先の開拓に取り組み、教員養成改革モデル事業「未来のミドル・リーダーの立体的な養成・採用システムの創出-教育学部と埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会との三者連携プログラム」（ミニGP）の採択に至っていることは、優れていると判断される。

- 中期計画「産業界等と連携したバイオサイエンスに関する研究プロジェクトを継続、発展させ、研究成果を得る」及び「研究プロジェクトや重点研究推進テーマとともに、教員個人の研究状況等について、ホームページ等を充実し、積極的な情報発信を行う」について、埼玉県地域結集型共同事業「埼玉バイオプロジェクト」において多数の論文発表や特許出願があり、後継事業が都市エリア産学官連携促進事業に採択されているほか、研究成果等の学内外への情報発信でも効果を上げていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「大学院国際プログラムを充実して外国人留学生を積極的に受け入れ、教育研究上の国際貢献を实践する」について、理工学分野の大学院教育を英語で実施する大学院国際プログラムを充実し、また、海外3大学（タイ、スリランカ、米国）との環境社会基盤国際連携大学院プログラムを開始して国際貢献を行っていることは、優れていると判断される。